



日本私立大学連盟

「教育立国」日本の再構築と私立大学

平成24年度 私立大学フォーラム（第1回仙台会場）

テーマ：グローバル化の中でのこれからの大学教育を考える

平成24年度 私立大学フォーラム グランドテーマの概要

日本社会は、「失われた20年」と言われる時代を経験し、パラダイムシフトを余儀なくされる厳しい環境に立たされている。また、「答えのない問題に最善解を導く能力」の育成を中央教育審議会は高等教育に求めている。我国の80%の学生の教育を託された私立大学の責務は日々増大している。このような役割を全うし、私立大学が日本の未来を担うためには、各大学の努力のみならず、大学間の連携した取組さらに連合組織の活動が不可欠である。

本年度の私立大学フォーラムでは「教育立国日本の再構築」をテーマに掲げ、優れた先行事例、私立大学連盟に蓄積された情報、関係方面からの新規情報等をもとに、各大学の「建学の精神」を現代に読み解き、温故知新をもって私立大学ゆえのアクションプランの在り方を検討する。

仙台での「グローバル化における大学教育」を端緒とし、「大学スポーツ・同窓会組織・寄附促進の取り組み」「地域連携に基づく活動」そして、喫緊の課題である「学士課程教育の実質化」について、松山、名古屋、京都へと会場を移し人の輪を広げつつ議論を展開する。

第1回「グローバル化の中でのこれからの大学教育を考える」開催趣旨

ユニバーサル段階を迎えたわが国の大学教育は、質的な変革を強く求められている。それとともに社会のグローバル化の進展に伴う対応も求められている。アジア版エラスムス計画等の動きもその一例である。

私立大学は学部における外国人留学生の約8割を受け入れているという現実がある。日本私立大学連盟では国際連携委員会を設置して、国際化の観点からの教育の質向上並びに国際交流の推進方針に係る政策提言を行うことを目指している。今年度最初のフォーラムは、「教育立国」の再構築にあたり、グローバル化が進む中で、これからの大学教育がどうあるべきかを考える機会としたい。

わが国の大学教育に求められている国際通用性とは何かを再確認するとともに、グローバル人材の養成という観点から企業や社会がわが国の大学教育に求めているものは何か、さらにはグローバル化に深く関わる秋入学や海外留学等、今後各大学が対応すべき諸問題についても考えてみたい。

開催日時：平成24年7月14日（土）【受付】12:30～

【意見発表・ディスカッション】13:00～17:30

【名刺交換会・コーヒープレイク】15:20～16:20

会場：東北学院大学 土樋キャンパス 押川記念ホール 最終頁参照

所在地：〒980-8511 宮城県仙台市青葉区土樋1-3-1

会場には駐車場がありませんので、公共交通機関にてご来場ください。

参加費：無料

参加申込期日：平成24年7月6日（金）

（フォーラムに関するお問い合わせ先：一般社団法人日本私立大学連盟 教学支援担当
電話番号：03-3262-3603 メールアドレス：forum12@shidai ren.or.jp）

・テーマ 「グローバル化の中でのこれからの大学教育を考える」

・プログラム

司 会・コーディネーター

原 田 善 教 (広報・情報部門会議(フォーラム)委員、東北学院大学経済学部長)

意見発表

1. 「グローバル化の中でのこれからの大学教育を考える(仮題)」

講師・パネリスト：坂 下 鈴 鹿 氏(文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室長)

中央教育審議会、グローバル人材育成推進会議並びに産学協働人材育成円卓会議をはじめとする政府関係機関におけるグローバル人材育成にかかる議論の模様をご紹介いただくとともに、グローバル人材の育成に多様な教育研究活動を展開する私立大学が果たすことが望まれる役割、期待についてお話しいただきます。

2. 「グローバル化に対する私大連盟国際連携委員会の取り組み(仮題)」

講師・パネリスト：倉 林 眞砂斗 氏(私大連盟国際連携委員会委員長・城西国際大学副学長)

国際連携委員会では、「数的国際化」を主軸としつつ、学習環境や交流環境などの「質的国際化」の推進にかかる問題提起を行ってきていることから、特に2005年以降のグローバル人材育成に伴う様々な課題にかかる検討成果についてお話をいただきます。あわせて、グローバル人材育成を継続的に推進するための日本人学生と留学生が“共に学ぶ”環境づくりとの視点から、留学生の受け入れ・派遣を相乗的に促進する仕組みの必要性についてお話しいただきます。

3. 「国際的人材養成の視点から グローバル化と日本の高等教育(仮題)」

講師・パネリスト：淡 輪 敬 三 氏(タワーズワトソン株式会社代表)

経済のグローバル化が急速に進む中で、大学のグローバル人材育成に対する要請は日に日に強まっています。しかし大学の取り組みはまだ十分なものとは言えません。その原因として大学の閉鎖性や保守性がしばしば挙げられます。とくに、英語教育のあり方や受身の知識吸収に偏した教養・専門教育などが批判の俎上にのせられます。グローバル化を遂げるビジネスの最前線に立つ側の視点から、今必要とされるグローバル人材とはどのような人材なのか、またそのために必要な教育とはどのようなことなのか、お話しいただきます。また、エリート養成だけでなく「分厚い中間層」の養成をも担う私立大学にとって、グローバル人材の育成はどのように取り組まれるべきなのか、ヒントが得られればと思います。

4. 「秋入学と留学制度の課題 聖学院大学の事例を踏まえて(仮題)」

講師・パネリスト：阿久戸 光 晴 氏(聖学院大学長)

「高等教育段階では学ぶ者の自学の意欲高揚こそが本質」とのお考えのもと、「種々の刺激や奨励を与えるネットワークの用意」と「学ぶ者の自学の選択肢の拡大」としての4・9月入学制度の早期導入を、学長の教学マネジメントを通じていかに実践しているのかの経験に基づき、学内での成果や事例等を踏まえながら、秋入学と留学制度にかかる今後の課題についてお話しいただきます。

ディスカッション

意見発表の内容について、パネリスト間、パネリストと参加者で意見交換を行います。

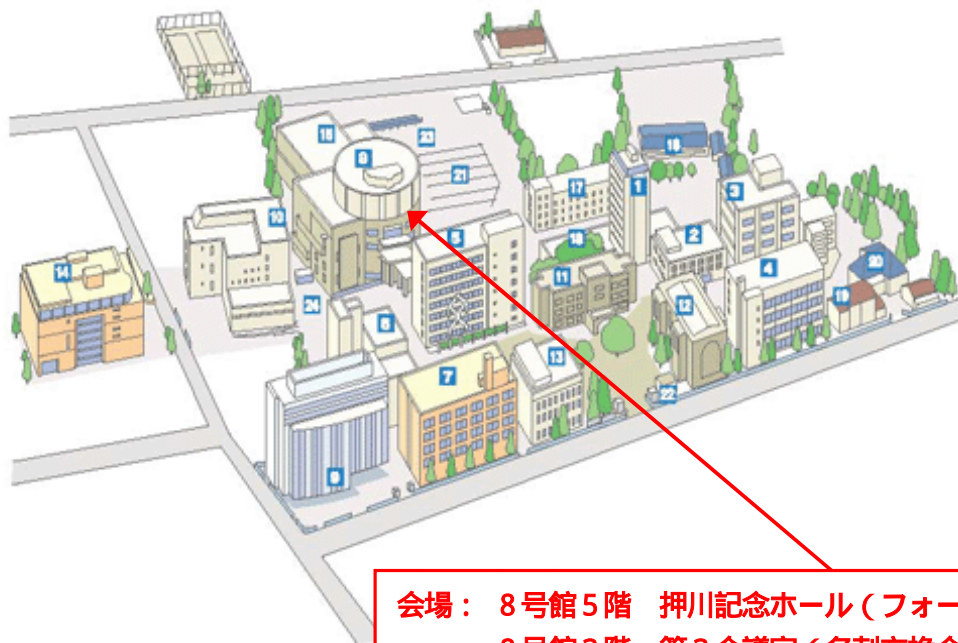
・タイムスケジュール

時間帯	分	プログラム等	
12:30～13:00	30	受 付	
13:00～13:10	10	開会挨拶	
13:10～13:40	30	意見発表	坂 下 鈴 鹿 氏（文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室長） 「グローバル化の中でのこれからの大学教育を考える（仮題）」
13:40～14:10	30		倉 林 眞砂斗 氏（私大連盟国際連携委員会委員長・城西国際大学副学長） 「グローバル化に対する私大連盟国際連携委員会の取り組み（仮題）」
14:10～14:20	10	小休憩	
14:20～14:50	30	意見発表	淡 輪 敬 三 氏（タワーズワトソン株式会社代表） 「国際的人材養成の視点から グローバル化と日本の高等教育（仮題）」
14:50～15:20	30		阿久戸 光 晴 氏（聖学院大学長） 「秋入学と留学制度の課題 聖学院大学の事例を踏まえて（仮題）」
15:20～16:20	60	コーヒープレイク（名刺交換会）	
16:20～17:30	70	ディスカッション	

本ご案内に記載の講師の方々にお話をいただくタイトル、内容等は、平成24年5月時点の内容です。当日までに若干の変更が生じる場合がありますことを申し添えます。

会場への交通案内：東北学院大学 土樋キャンパス

- ・JR仙台駅 - 仙台市地下鉄南北線五橋駅 - 徒歩5分
- ・JR仙台駅 - 徒歩20分



**会場： 8号館5階 押川記念ホール（フォーラム）
8号館3階 第3会議室（名刺交換会）**

会場には駐車場がありませんので、公共交通機関にてご来場下さい。